

# 平成24年【第4回】 「いわて復興ウォッチャー調査」結果報告

## 1 目的

東日本大震災津波からの復興状況を定期的に把握するため、被災地域において復興の動きを観察できる立場にある方々の協力を得て、復興感に関する調査を四半期に1回(3カ月に1回)実施する。

## 2 調査の概要

### (1) 調査対象

被災した12市町村に居住又は就労している方153名

※原則として、毎回同じ方を対象に調査を実施

### (2) 調査方法

郵送法(郵送による発送、返信用封筒による返送)

### (3) 調査対象時期

平成24年11月(次回調査は平成25年2月)

### (4) 調査項目

問1 被災者の生活の回復に対する実感(生活の回復度、3ヵ月間の進捗状況)

問2 地域経済の回復に対する実感(地域経済の回復度、3ヵ月間の進捗状況)

問3 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

(災害に強い安全なまちづくりの達成度、3ヵ月間の進捗状況)

### (5) 回収結果

有効回収率 88.9%(136名/153名) <前回 88.2%(平成24年8月)>

### (6) 回答者の属性

#### ①性別

性別	人数	割合
男性	94	69.1%
女性	42	30.9%
不明	0	0.0%

#### ②地域別

地域	人数	割合
沿岸北部	47	34.6%
沿岸南部	89	65.4%
不明	0	0.0%

#### ③年齢別

年齢別	人数	割合
39歳以下	28	20.6%
40歳代	44	32.4%
50歳代	41	30.1%
60歳以上	23	16.9%
不明	0	0.0%

#### ④住宅被害の有無

市町村別	人数	割合
被災あり	63	46.3%
被害なし	59	43.4%
不明	14	10.3%

#### ⑤ 職業・所属等

- ・ 地域団体・郵便局関連(仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者)  
57名(41.9%)
- ・ 教育・福祉施設関連(小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者)  
38名(27.9%)
- ・ 産業・経済・雇用関連(漁業、農業の従事者/雇用支援機関、金融機関の関係者)  
41名(30.2%)

#### ■参考■

- 「回復度」又は「達成度」とは、震災以降における全体の回復状況についてお尋ねしています。  
「進捗状況」とは、直近3ヶ月の進み具合についてお尋ねしています。
- 沿岸北部とは、洋野町、久慈市、野田村、普代村、田野畑村、岩泉町  
沿岸南部とは、宮古市、山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市です。

※ この調査は、調査結果の集計、分析について、岩手県立大学総合政策学部の協力を得て行っています。

### 3 調査結果の概要(1) 被災者の生活の回復に対する実感

○被災者の生活の回復度については、「回復した」が5.1%、「やや回復した」が45.6%となり、両者の合計は50.7%であり、初めて「回復した」、「やや回復した」の合計が過半数を超えた。

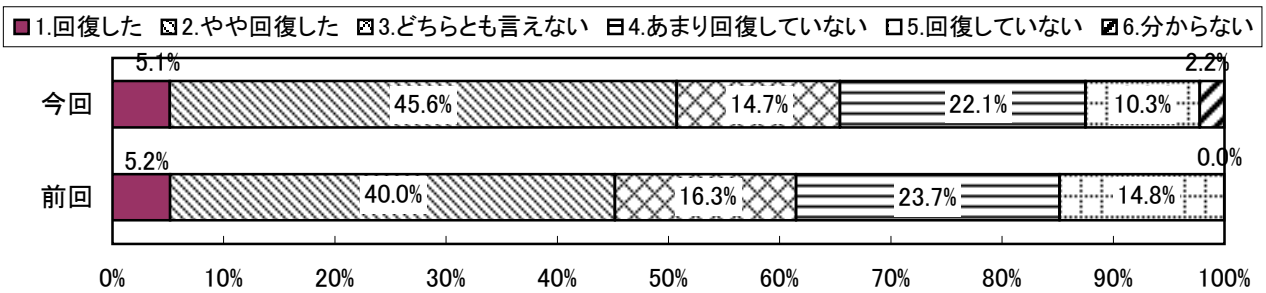
地域別では、沿岸北部、沿岸南部ともに「やや回復した」の割合が最も高かった。沿岸北部では48.9%で、前回の結果(37.2%)から11.7ポイント上がり、沿岸南部では43.8%で、前回の結果(41.3%)から2.5ポイント上がった。

○直近3ヶ月の回復の進捗状況を見ると、「やや進んでいる」が39.0%で最も多かった。「進んでいる」、「やや進んでいる」の割合は、前回とほぼ横ばいの42.7%だった。

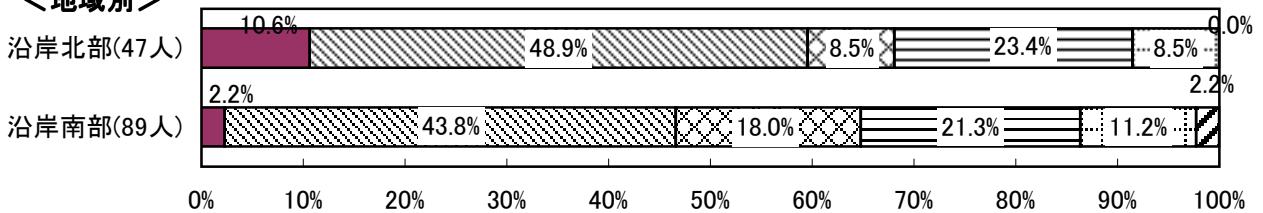
回復度や進捗状況を判断した理由については、**雇用環境が改善した、通常通りの生活に戻っている**という回答もあったが、**自分や周りの生活に足踏み状態がある、仮設住宅内に世帯間格差がある**という回答もあった。

#### ① 被災者の生活の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】あなたの周囲をご覧になって、被災者の生活は、被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

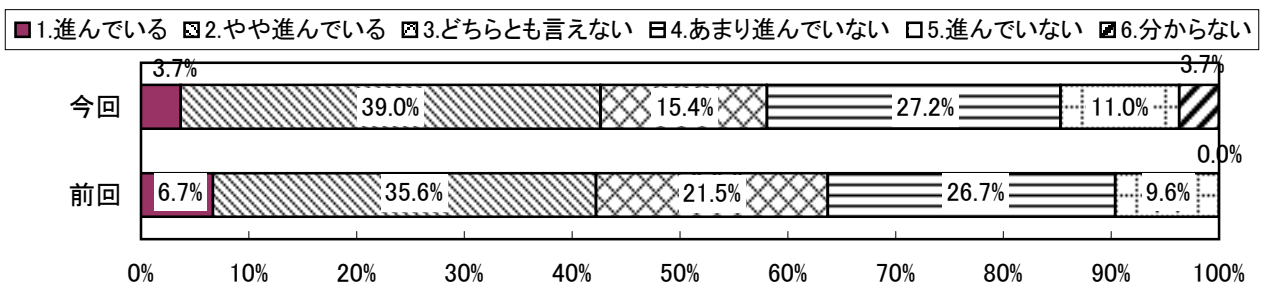


#### <地域別>

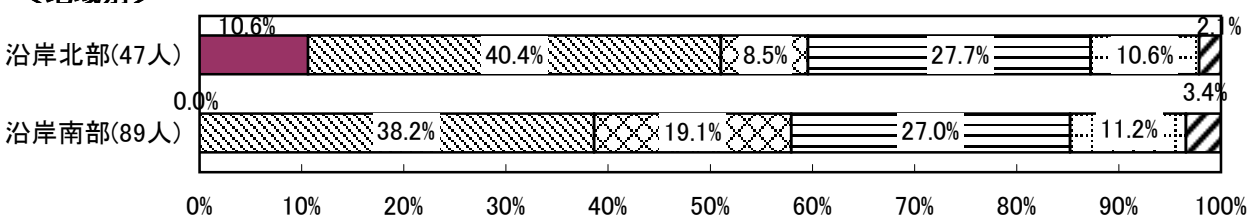


#### ② 3カ月間(概ね9月から11月)の進捗状況

【設問】あなたの周囲をご覧になって、最近の(3カ月間程度)被災者の生活の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



#### <地域別>



※凡例内の( )は、回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する理由[自由記載]

区分	理由(要旨)
「1.回復した」 又は 「1.進んでいる」 の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設等を見ると元に戻っているため、回復は進んでいるようにかたち上は見える(50歳代 教育・福祉施設関連 沿岸北部)</li> </ul>
「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅の再建にはまだ相当の時間を要するが、日常生活はだいぶ通常通りになっている。祭りや例年の行事もいつも通り行われている(40歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸北部)</li> <li>・被災者の生活の回復度は、なんとといっても「家がほしい」これが解決されることこそ、回復度に繋がると思う(60歳以上 地域団体・郵便局関連 沿岸南部)</li> <li>・徐々に住宅の新築や土地の確保に動く人も増えてきてはいるが、ほとんどの人が仮設で暮らしている(30歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸南部)</li> <li>・被災者は限定的であるが、雇用環境も改善しており生活は回復しているものと思われる(50歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸北部)</li> <li>・高台移転地が決まり、続々と家を建てる方が増えてきた。また、徐々に仕事の需要も増え、被災した方の生活も元通りになっている(30歳代 教育・福祉施設関連 沿岸北部)</li> <li>・生活の見通しがつかず、仮設住宅で生活する方もいるが、自宅を修理、新築して仮設住宅を出る人も増えており回復していると感じる(30歳代 教育・福祉施設関連 沿岸南部)</li> <li>・衣食は以前と変わらない生活になってきているようだ。住環境としては、仮設住宅を出て新居に移っている世帯が少しずつ増えている(40歳代 教育・福祉施設関連 沿岸南部)</li> </ul>
「3.どちらとも言えない」 の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分や周りの生活を見ると足踏み状態が進んでいるように見受けられる。仮設住宅内でも世帯間格差のようなものが見える気がする(30歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸南部)</li> <li>・現在の復興住宅の建設計画が一部の地域で進んでいるものの、最終的に住宅の確保ができるまでは回復したとは思われない(50歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸南部)</li> <li>・不自由な中で団地住民のコミュニティ活動(自治体活動)が定着し、隣人愛や互助精神が醸成されている(60歳以上 教育・福祉施設関連 沿岸南部)</li> </ul>
「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活状況・実態は変わっていない。移転地は決定したが、用地買収等が難航して進展がない。私も含め、疲労感が増していると思う(50歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸北部)</li> <li>・高台移転の案も決まりつつあるが、入居ができる状態になるには何年(数年)先のことで、それまで今の状態での生活は不安に思う(50歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸北部)</li> <li>・雇用の創出に関しては、ほとんど実感がない。失業者が溢れている。漁業者は養殖が多いため水揚げが順調になるまでは3年かかる(40歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸南部)</li> <li>・仮設長屋店舗等がある程度建ち並んだが、客足は寂しい。仮設住宅での生活は、全てをなくした悔しさを諦めた静かな暮らしだと思う(60歳以上 教育・福祉施設関連 沿岸南部)</li> <li>・住宅再建等の見通しが立たず、不安を抱える人も多い。特に高齢者は不平不満も言わず、今の生活に慣れようとする姿は痛々しい(40歳代 教育・福祉施設関連 沿岸南部)</li> </ul>
「5.回復していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私は仮設住宅がなくなる限りは被災者の生活が進歩したとは言えないと思っている(30歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸南部)</li> </ul>

注1「理由」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2 回答区分別の理由数は、回答区分の比率に応じています。

注3 掲載内容は、意見の多かった内容、回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連: 仮設住宅の自治会・地域づくり団体等の関係者、郵便局の関係者

教育・福祉施設関連: 小中学校・高等学校の教員、福祉施設の関係者

産業・経済・雇用関連: 漁業、農業の従事者、雇用支援機関・金融機関の関係者

### 3 調査結果の概要(2) 地域経済の回復に対する実感

○地域経済の回復度については、「回復した」が2.2%、「やや回復した」が42.6%となり、両者の合計は44.8%であり、前回の結果（44.4%）からほぼ横ばいであった。

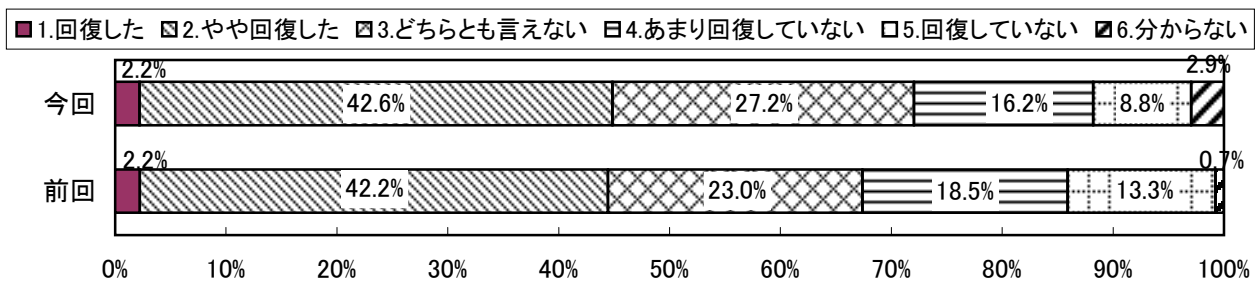
地域別では、沿岸北部、沿岸南部ともに「やや回復した」の割合が最も高かった。沿岸北部では42.6%、沿岸南部では42.7%で、いずれもほぼ横ばいとなっている。

○直近3ヶ月の回復の進捗状況については、「やや進んでいる」の割合が36.8%と最も高かったが、前回の結果（43.7%）から6.9ポイント下がった。また、「あまり進んでいない」、「進んでいない」の合計は30.2%で前回の結果（31.9%）から1.7ポイント下がった。

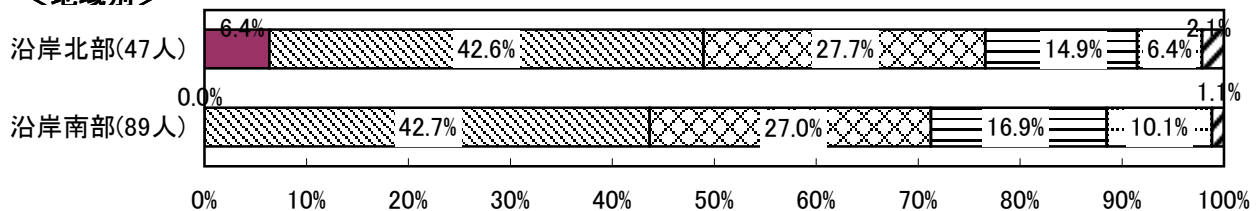
回復度や進捗状況を判断した理由については、**漁業設備の復旧、仮設店舗の再開から復興を実感する回答が多かった。**一方で、**業種間の賃金格差等により雇用のミスマッチが生じている**点を指摘する回答もあった。

#### ① 地域経済の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】あなたの周囲をご覧になって、地域経済は、被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

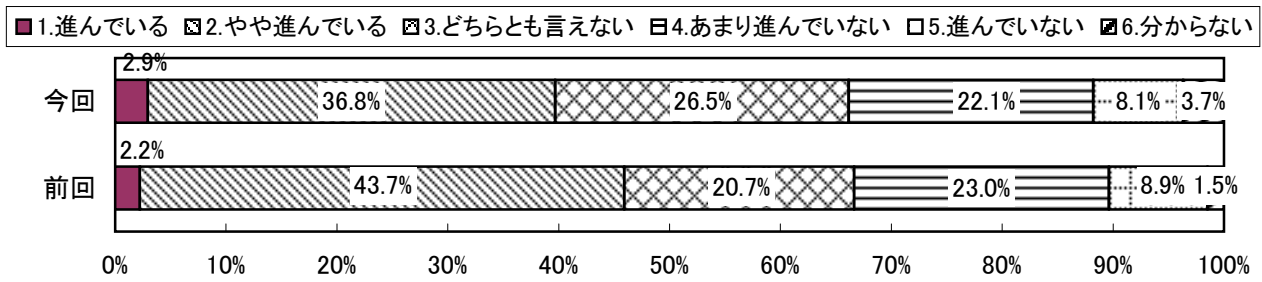


#### <地域別>

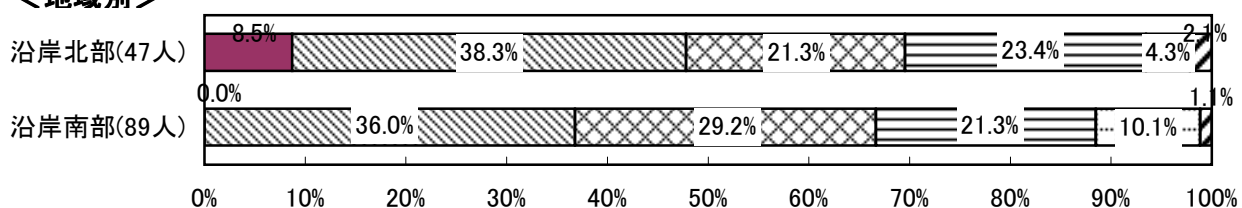


#### ② 3カ月間(概ね9月から11月)の進捗状況

【設問】あなたの周囲をご覧になって、最近の(3カ月間程度)地域経済の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



#### <地域別>



※凡例内の( )は、回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する理由[自由記載]

区分	理由(要旨)
<p>「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業設備の復旧、食堂の再開、仮設店舗の営業がニュースになると復興を感じる。小学校の授業で働く人々の頑張りに触れている(40歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸北部)</li> <li>・漁協の市場が新築し、朝は漁師がいて活気がある。ただ、量が不足している為、被災者の漁師達は生活が苦しい状況である(40歳代 教育・福祉施設関連 沿岸北部)</li> <li>・インフラを中心とした復旧工事の発注状況を見ると「やや回復した」と感じるが、受注した工事が計画通りに進捗するかが勝負だと思う(50歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸南部)</li> <li>・グループ補助金等を活用し、事業を再開した企業が多少増加した。ただし、人手不足の為、業務内容としては十分ではない(50歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸南部)</li> <li>・仮設店舗、仮設事務所がさらに増え、新事務所を開設した事業所も出てきた。夜、対岸から見える街の灯りが輝きを増している(50歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸南部)</li> <li>・漁船や養殖施設の復旧で今春はわかめの生産・出荷が出来た。ホタテ・ホヤ等の養殖施設復旧で来秋には出荷の目処がついた(60歳以上 教育・福祉施設関連 沿岸南部)</li> <li>・仮設住宅の女性達が、さそいあって仮設作業所まで歩いてワカメのシントリ作業に通っている(60歳以上 地域団体・郵便局関連 沿岸南部)</li> </ul>
<p>「3.どちらとも言えない」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被災後、集落が分断され、商工関係者もどこで商売したら良いのか決めかねている(60歳以上 教育・福祉施設関連 沿岸北部)</li> <li>・仮設の店舗は営業しているが、お客さんはあまり見られない。仮設住宅からは遠いため、皆車を利用し隣の市のスーパーへ行っている(40歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸北部)</li> <li>・浸水地域でも、本設によるスーパー、事業所の建設が増加してきた。ただし、グループ補助金頼みといった構造は変わらない(50歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸南部)</li> <li>・水産加工業はグループ補助金で復活したが震災前の水準にはない。補助金が出るため不必要な建築、過大な建設計画が見られる(50歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸南部)</li> <li>・仮設商店街、水産加工施設の建設で回復の兆しがあるが、瓦礫撤去の復興企業と地元水産加工業の賃金格差が雇用を阻んでいる(60歳以上 教育・福祉施設関連 沿岸南部)</li> </ul>
<p>「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業は田の再建が進み米の収穫を迎えたが、農業機械等、被災しない人達から借りて作業をしている(60歳以上 教育・福祉施設関連 沿岸北部)</li> <li>・グループ補助金が認定されない企業が多く、経済の活性化が遅れる要因となっている。新しい物が建ってきているという実感がない(50歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸南部)</li> <li>・市に農林水産業の基盤整備に関するスペシャリストがいない(40歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸南部)</li> <li>・県内どこでも同一価格で買物ができるが、仮設店舗で頑張る被災者の方を考えると今後商売が行き詰まり閉店する事態を懸念する(40歳代 教育・福祉施設関連 沿岸北部)</li> </ul>
<p>「5.回復していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまではボランティア始め、様々な人が訪れ、商店の人達も喜んでいて。今、町の人からは「お祭り」はもう終わりだ、という声が聞かれる(30歳代 教育・福祉施設関連 沿岸北部)</li> </ul>

注1)「理由」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2)回答区分別の理由数は、回答区分の比率に応じています。

注3)掲載内容は、意見の多かった内容、回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連:仮設住宅の自治会・地域づくり団体等の関係者、郵便局の関係者

教育・福祉施設関連 :小中学校・高等学校の教員、福祉施設の関係者

産業・経済・雇用関連:漁業、農業の従事者、雇用支援機関・金融機関の関係者

### 3 調査結果の概要(3) 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

○安全なまちづくりの達成度については、「あまり達成していない」が30.1%、「達成していない」が37.5%となり、両者の合計は67.6%で前回(71.8%)から4.2ポイント下がった。

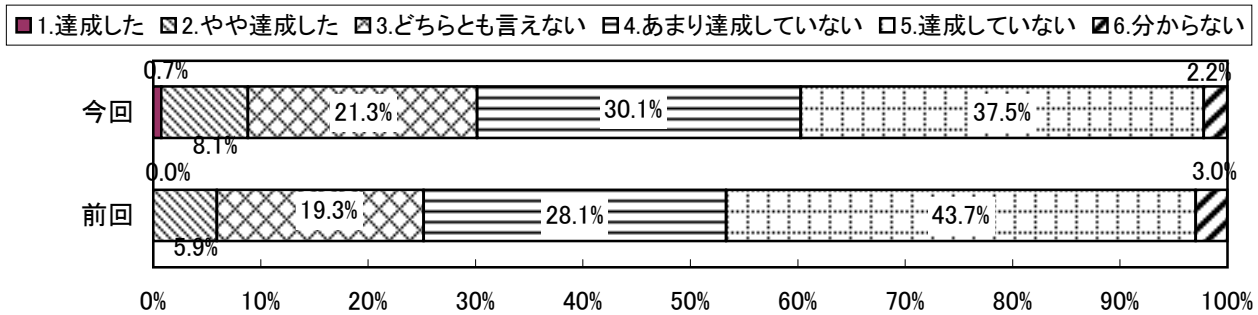
地域別では、沿岸北部、沿岸南部とも、「あまり達成していない」、「達成していない」の合計が依然として高く、沿岸北部では5割以上、沿岸南部では7割以上となっている。

○直近3ヶ月の進捗状況についても、「進んでいない」の割合が34.6%と前回の結果(40.7%)から6.1ポイント下がったが、引き続き最も高かった。

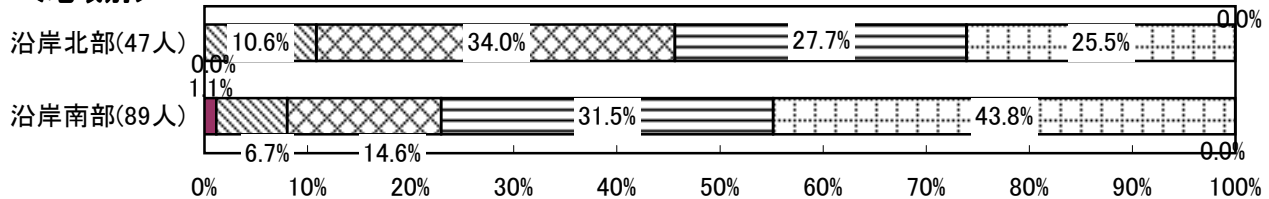
達成度や進捗状況を判断した理由については、復興まちづくり計画が進捗するとともに、子どもや若い世代への防災教育、避難場所の周知等が行われているとの回答があるが、防波堤の不備を指摘する回答が依然として多い。また、生活道路の未整備を指摘する回答もあった。

#### ① 災害に強い安全なまちづくりの達成度(震災以降における全体の達成状況)

【設問】あなたの周囲をご覧になって、災害に強い安全なまちづくりは、被災前と比べてどの程度達成したと感じますか？

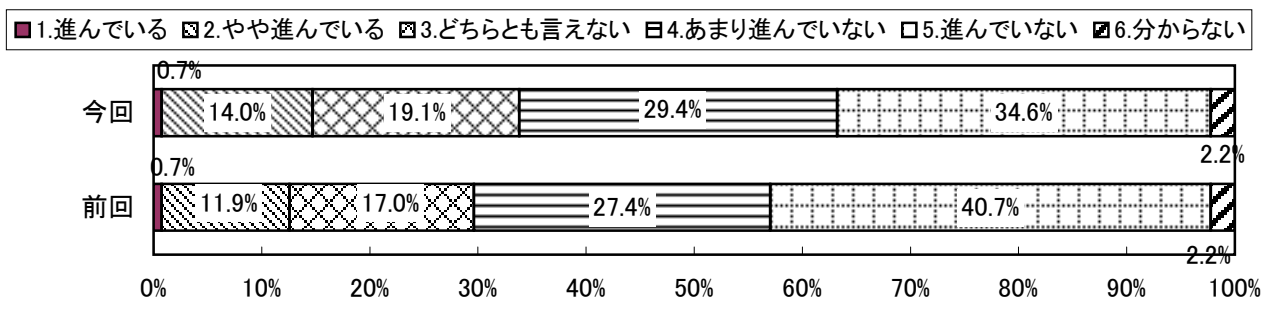


#### <地域別>

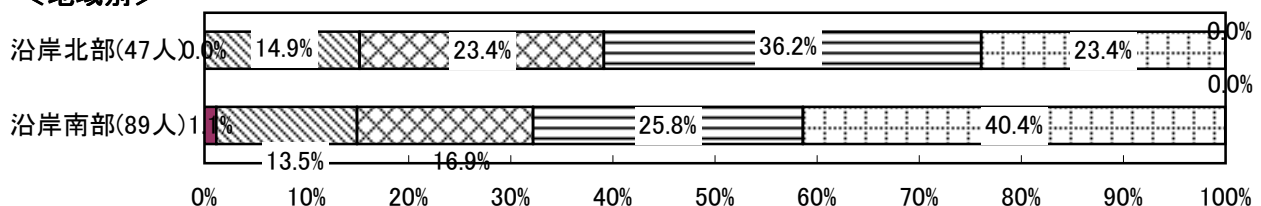


#### ② 3カ月間(概ね9月から11月)の進捗状況

【設問】あなたの周囲をご覧になって、最近の(3ヶ月間程度)災害に強いまちづくりの進み具合は、どの程度と感じますか？



#### <地域別>



※凡例内の( )は、回答者数を示す

③ 達成度(①)、進捗状況(②)に関する理由[自由記載]

区分	理由(要旨)
<p>「2.やや達成した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の意識は大きく変化したと実感する。また、子ども達や若い世代の人々への教育や指導も意識的に計画されていると思う(50歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸北部)</li> <li>・港湾整備、防潮堤の整備が目に見えて進んでいる。避難場所の周知も徹底されているが、もっと避難方法の周知・訓練も必要では(30歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸南部)</li> </ul>
<p>「3.どちらとも言えない」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防潮堤の工事や都市整備計画等、進んでいるが、未だ目に見える形ではない。物理的に確認できるのは2～3年後となるだろう(50歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸北部)</li> <li>・海に近い小中学校に不安を感じる。津波対策で校庭に数メートルの壁が作られた。安心だが学校の高台移転がうやむやになりそう(40歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸北部)</li> <li>・まちづくりは現在進んでいるが、具体的な工事はこれから。説明会は各地で開催されているが、多くの市民はまだ理解できていない(30歳代 教育・福祉施設関連 沿岸南部)</li> </ul>
<p>「4.あまり達成していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・波よけのテトラポット等全くなく、しけが来ると波が直接湾内に入ってくる。係留している船舶を安心して見守る状況にない(40歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸北部)</li> <li>・中核医療施設につながる道路の整備に関しては急務である。早期着工を実施してほしい(40歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸北部)</li> <li>・防波堤、防潮堤工事は進まず、津波に対し無防備な状況のまま。避難路、避難所も明示がない。暫定的防災マップも必要である(50歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸南部)</li> <li>・消防団の屯所も着工がない。海岸道路の崩れた護岸も浸食が進んでいる。防災拠点を目指す小中学校建設も3か月程動きがない(60歳以上 教育・福祉施設関連 沿岸南部)</li> <li>・堤防が倒れたまま。ガードレールが落ちた道路がまだある。復興のための資金が的外れなことに使われており憤りを感じる(40歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸南部)</li> </ul>
<p>「5.達成していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海の近くに住んでいるが、津波で壊れた防波堤は全く工事が進まず、木々もなぎ倒されて海が近く感じる(50歳代 教育・福祉施設関連 沿岸北部)</li> <li>・生活道路は震災時のまま。策定された防災計画は進捗状況がわからない。介護弱者の施設も地域全体として方向性が示されない(50歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸北部)</li> <li>・目に見えるものは何も進んでいない。時がたつにつれて何も進まなければ住民はやる気をなくすし、諦めと思う(30歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸南部)</li> <li>・岸壁の工事は多少進んでいるが堤防は手がついていない。高潮の時、倒れた堤防を越えて波が来る。工事の順序を考えるべき(50歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸南部)</li> <li>・防波堤は壊れたままなのに車の交通量は増えた。さらに地盤沈下が進んでいるように思われる(40歳代 地域団体・郵便局関連 沿岸南部)</li> <li>・地盤沈下により居住地だった所まで海水が入るのを見ると恐怖を感じる。防波堤等も必要だが津波の恐ろしさを後世に伝えるべき(40歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸南部)</li> <li>・町としての防災計画が未定となっている。さらに避難所になる学校と地域とのつながりを作りたいが、町や地域の動きがない(50歳代 産業・経済・雇用関連 沿岸南部)</li> </ul>

注1)「理由」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2) 回答区分別の理由数は、回答区分の比率に応じています。

注3) 掲載内容は、意見の多かった内容、回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連: 仮設住宅の自治会・地域づくり団体等の関係者、郵便局の関係者  
 教育・福祉施設関連: 小中学校・高等学校の教員、福祉施設の関係者  
 産業・経済・雇用関連: 漁業、農業の従事者、雇用支援機関・金融機関の関係者

平成24年【第4回】  
「いわて復興ウォッチャー調査」  
結果報告書  
(平成24年12月)

発行

平成24年12月26日  
岩手県 復興局 企画課

〒020-8570  
岩手県盛岡市内丸10-1  
電話(019)-629-6945  
ホームページ：いわて復興ネット  
<http://www.pref.iwate.jp/view.rbz?cd=39696&ik=0&pnp=14>